

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 22 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370669

研究課題名(和文) コミュニケーション文法の確立と中国語教育の基盤の再設計

研究課題名(英文) Construction of communication grammar and re-design of the foundation of Chinese language teaching

研究代表者

山崎 直樹 (YAMAZAKI, Naoki)

関西大学・外国語学部・教授

研究者番号：30230402

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：当課題の目標は、コミュニケーション・ゴールと言語の構造と運用に関する知識を結びつけたコミュニケーション文法のためのリソースを開発し、共有することである。この目標のため、『外国語学習のめやす：高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』のコミュニケーション能力指標をコミュニケーション能力指標に分解し、それを遂行するための言語表現を方略的言語使用も考慮に入れて選定し、それをコミュニケーションの3モード(解釈/提示/対人)に分けてパターン化し、そこに語用論的知識や社会言語学的観点も盛り込んだ「文型リスト」を開発し、共有リソースとして公開した。

研究成果の概要(英文)：The goal of this project is to develop and share the resources of “Communication Grammar”, which can associate the knowledge about the structure and use of Chinese language with “Communication Goals” for Communicative language teaching. For this purpose, we have carried out the following tasks: 1) setting almost 300 communicative tasks based on “Indications for Communicative Competence” denoted by “Foreign Language Curriculum Guidelines: A Proposal from Chinese and Korean Language Teachers” (The Japan Forum, 2013), 2) selecting language expressions including strategic language use needed for these tasks, 3) analyzing these expressions into sentence patterns and classifying them into 3 modes of communication (interpretive / presentational / interpersonal mode), 4) adding knowledge about pragmatics and socio-linguistic views on Chinese language to this “Sentence Pattern List”, 5) publishing the list on our web site (<http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~ymzknk/kome/>).

研究分野：中国語教育学・外国語教育学

キーワード：「外国語学習のめやす」 コミュニケーション能力指標 コミュニケーションの3モード コミュニカティブタスク準拠文型リスト 語用論的知識 社会言語学的観点 方略的言語使用 中国語教育

1. 研究開始当初の背景

当研究組織は「コミュニケーション・ゴール」と「言語の構造と運用の知識」を結びつけるために「コミュニケーションのための文法」を確立することを目指し、その具体化の1つの方策として、「コミュニケーション能力指標に基づいた文型リスト」の構築を進めている。その背景は以下の通りである。

(1) Backward Design によるコミュニケーション能力中国語教育への流れ

コミュニケーション・ゴールを始めに設定し、コミュニケーション能力を測る評価法をそれに合わせて定め、そこから授業・教材を設計していくという Backward Design はすでに一般的になりつつある。このアプローチの代表的な例は『外国語学習のめやす：高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』(TJF, 2013) である(以下『めやす』)。『めやす』は15の話題領域における「Can-do 能力記述文で記述されたコミュニケーション能力指標」を提案している。本研究はこの能力指標をいかに中国語教育の現場に導入するかという観点から出発した。

(2) 中国語教育のための共有リソースの必要性

コミュニケーション能力指標から出発して授業・教材を設計しようとする、次の2種類の恣意性が生まれる。①「指標」(例：身近な人を紹介できる)に到達するためには、具体的にどのようなタスクを与えればよいか(=紹介にはどのような言語行為が含まれるか)という判断が教師により異なる、②その行為は具体的にどのような言語表現に対応するかという判断が異なる。また、この恣意性は教師の能力の高低とも関係する。よって、教師が共有できる言語表現に関するリソースが、教育内容の標準化のために必要である。

(3) 言語構造に関する知識のほかに必要なもの

コミュニケーション能力を構成するものは、言語構造に関する知識のほかに、「方略的能力」「社会言語学的能力」などもあることが指摘されて久しい。「コミュニケーション能力の育成」を掲げる以上、これらの能力を体系的に導入する方法を考える必要がある。

当研究組織は、これらの課題を解決するためには、「コミュニケーション文法のための文型リスト」を構築し、それを共有リソースとして世に問うことが最適の方法であるという結論に達した。

2. 研究の目的

当研究課題は『めやす』に示された「コミュニケーション能力指標」のための文型リス

トの作成を目指した。この文型リストは、コミュニケーション能力を示した到達目標を、中国語の構造と運用に関する知識と結びつけ、その知識を教授者間で共有するためのものである。

まず、Can-do 能力記述文で記述されたコミュニケーション能力指標(実際に採用したのは『めやす』で示された「コミュニケーション能力指標」=コミュニケーション能力を示した到達目標、である)を、中国語の構造に関する知識と結びつけ、コミュニケーション能力の裏づけとなる言語体系に関する知識の明示化を図る「文型リスト」を構築することを第1の目標とした。

さらに、構造の知識のみでなく、方略的言語運用、語用論的慣習、社会言語学的観点に関する知識も同時に記述できる文型リストのフォーマットを完成させ、外国語教育のリソースを共有するための手段として世に問うことを第2の目標とした。

3. 研究の方法

以下の特徴を持つ文型リストの構築をする作業を進めた。

(1) 逆向き設計による合理性がもたらす合目的性

これまで各所で作成された初級者のための文型リストは、語彙と文法体系の基本的な部分を理解させるためのものであった。このようなリストは、たとえ、コミュニケーション能力の育成を目標に掲げていても、構造を出発点とした設計であるので、ゴールにとって最適な項目選択がされている保障はない。また、『旅行者のための基本表現100』というようなタイトルをもつ、文例だけを集めた表現集は、特定の用途のための文を暗記用に羅列したものが多い。また、そもそも「構造への理解」を促進する過程自体を欠いている。我々の目指すのはそのどちらでもない。我々の文型リストは、到達すべきコミュニケーション能力から逆向きに言語構造の知識を構築する設計に拠っている点で、合目的性を備え、言語構造への配慮を怠らない点で、学習者が習得目標言語の体系を習得する過程を支援するものとなっている。

(2) 方略的言語運用・語用論的慣習・社会言語学的観点への言及

この文型リストは指標をタスクに分解することから出発している。タスクはコミュニケーションの具体的な目的・場面・参加者を想定して行う。ゆえに、文型を設定する際、方略的言語運用(例：筆記具の有無を問うことにより貸してほしいと頼む)や語用論的慣習・社会言語学的観点(例：このような申し出を行うと、自分が食事代を負担することを申し出ていると解釈される可能性がある)に言及することは、むしろ必然的に必要になる。本リストにより、これら「方略的言語運用、

語用論的慣習、社会言語学的観点」に関する知識を体系的に導入できる。

(3) 恣意性の排除と要求する言語能力の明示

『めやす』という枠組に示された指標を採用し、それを言語行為に対応するタスクに分解することにより、コミュニケーション目標と言語構造を結びつける作業から、恣意性を極力排除できる。また、リスト構築過程で、言語行為を「理解する・伝える・やりとりする」という3つのモードに分類をした。これにより、そのタスクで要求する言語能力を明確にできる。

(4) 中国語の言語構造と言語運用への新しい視点

文型をすべて整理したとき、従来型の、構造を理解させる「初級者用文法」あるいは単に頻度の調査から得られた「初級語彙」からは見えてこなかった、中国語という言語の体系に関する新しい視点が得られる可能性がある。

(5) 言語資源の共有とフォーマット自体の共有

コミュニケーションな中国語教育を行うためには、中国語でのコミュニケーションに対する教師の深い理解が必要であるし、授業・教材の設計に多くの労力と時間が必要である。このリストが共有されることにより、これらの負担を軽減できる。また、ここで提案する「文型リスト」のフォーマットが言語を超えて共有されれば、言語横断的な言語資源の構築が可能になる。

具体的な作業手順は以下の例に示す通りである。

① コミュニケーション能力指標をコミュニケーションなタスクに分解し、「理解する・伝える・やりとり」のどのモードでの言語能力を要求するかを決定する。例：指標「休みの日に友だちを行楽地、カラオケ、コンサートなどに口頭で誘うことができる」を「いっしょに遊びに行こうと誘う／特定の日にどこかへ行こうと誘う／特定の日に何かの遊びをしよう」というコミュニケーションなタスクに分解する。「誘う」という言語行為はそれに対する承諾／拒否がペアになると考えられるので、「やりとり」モードの言語能力が必要であると定義する。

② 言語表現を選定し、定項と変項を定め、変項に適切な範疇名を設定する（この名称は文型の分類と抽出のためのタグとして機能させる）。例：这个周末，我们一起去唱卡拉OK吧。→〈特定の日〉，我们一起〈余暇：～する〉吧。※この〈 〉の文字列、つまり変項の範疇名は恣意的なものであってはならないので、すべての文型に対し変項を設定し終えた時点で、再構築を試みなければならない。

③ 方略的言語運用・語用論的慣習・社会言語学的観点について記述を加える。例：誘っ

た側が費用を負担することを期待される可能性がある。断る場合は、謝罪の言葉を繰り返すより、誘ってくれたことに対する謝礼、代替案の提示など、ポジティブな対応をすべき……（以下略）

4. 研究成果

(1) 文型リストの公開

『めやす』の全15の話題領域に含まれるコミュニケーション能力指標（レベル1）の97条の指標に対して、299項のコミュニケーションなタスクを設定し、これを当研究課題の成果を伝えるウェブサイト（『中国語コミュニケーション文法を考える』）で公開した。引き続き、これらのタスクに対し、コミュニケーションの3モード（解釈／提示／やりとり）に分類した表現例を設定し、その表現例を、変項と定項を明示した構成要素に分析することにより「文型」として形式的に定義した。これらを完成した話題領域から順次、上記のサイトで公開し、現在も公開作業を進行させている。2016年5月現在では、形式的な整理がまだ完成していないため、全領域の公開には至っていない。

(2) セミナー／ワークショップの開催

当研究課題の成果を、中国語教育および他の言語の教育に関わる関係者と共有し、リソースとして普及させることは、当初からの目的であった。この広報・啓蒙活動は、幾つかの学会の支部例会などで行ったが、集大成として、2016年1月に「外国語教育に関するセミナー&ワークショップ」を当組織が主催し、『めやす』の概要・理念、およびこの文型リストの詳細な説明、参会者との意見交換を、半日かけて行った。この会には、中国語のみならず、韓国語、露語、日本語、独語、西語など様々な言語の教育に従事する関係者が30名近く参加した。

(3) 文型リストに関する研究発表

文型リスト構築上の問題点を、研究発表という形で広く研究者と共有し意見交換を行う試みは、2015年の『言語教育エキスポ2015』を皮切りに、日本中国語学会の支部例会などにおいて、連名で、あるいは単独で、複数回行った（北海道支部、東海支部での研究発表）。その集大成は、日本中国語学会の2015年度全国大会（於東京大学駒場キャンパス）における研究発表である。ここで、中国語研究・中国語教育研究の専門家と意見交換を行った。

(4) 基礎研究の遂行

上述の活動と並行して、メンバーのそれぞれが、このリストに言語学的・言語教育学的基盤を与えるべく、中国語の習得過程、語用論的・社会言語学的研究、教授法、教材作成、カリキュラム策定などに関する研究を行い、論文として公刊した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 16 件)

- (1)西香織, 口頭試験における初級中国語学習者のコミュニケーション・ストラテジー, 北九州市立大学国際論集, 査読なし, 第 14 号, 2016, 117-133
- (2)植村麻紀子, 翻訳の授業におけるレアリア活用の意義, 神田外語大学紀要, 査読なし, 第 27 号, 2015, 243-262
- (3)鈴木慶夏, 現代漢語疑問代詞前後照応的語法構式—如何理解“誰先回家, 誰就作飯”, 語言教学与研究, 査読あり, 第 2 号, 2015, 35-44
- (4)西香織, 從跨文化視角看日本姓名切分問題与誤称問題, 漢語語言学 日中學者論文集—紀念方經民教授逝世十周年—, 査読なし, 2015, 209-218
- (5)西香織, 姓名称呼的中日文化差異及其教学, 國際漢語教学与中華文化: 第十三屆國際漢語教学學術研討會論文集, 査読あり, 2015, 70-77
- (6)西香織, "わびに対する応答の日中英対照研究—上下關係の違いを中心に—, 東アジア日本語・日本文化研究, 査読あり, 第 19 集 (特別号), 2015, 95-108
- (7)西香織, 中国語教材における出会いと別れのあいさつ表現, 北九州市立大学国際論集, 査読なし, 第 13 号, 2015, 81-96
- (8)山崎直樹, 自然言語処理技術の発達が外国語教育にもたらすもの, 漢字文献情報処理研究, 査読あり, 第 16 号, 2015, 6-16
- (9)鈴木慶夏, 從“運用”到“知識”的語法教学法—基於逆向設計的真實任務, 華語作為二語与外語的教学: 探索与实践, 査読あり, 2014, 10-28
- (10)中西千香, レアリアにあらわれる中国語の語彙的特徴—スーパーのチラシを中心に—, 日中語彙研究, 査読なし, 第 3 号, 2014, 23-46
- (11)中西千香, レアリア: Web やアプリからみる中国、中国語、中国語教育, 査読なし, 第 12 号, 2014, 23-30
- (12)山崎直樹, 高校と大学の間での外国語教育の連携は可能か, 複言語・多言語教育研究, 査読なし, 第 2 号, 2014, 72-86

(13)鈴木慶夏, 從“運用”到“知識”的語法教学法—基於逆向設計的真實任務, 査読あり, 華文教学叢書, 2013

(14)SUZUKI, Keika, CFL Teachers' Challenges and Strategies on Chinese wh-conditionals, 國際漢語教学學術研討會論文集 (曹順慶・愈志強主編), 査読あり, 2013, 796-804

(15)中西千香, 初修外国語における中国語教育の一例—ICT 活用とからめて—, 漢字文献情報処理研究, 査読あり, 第 14 号, 2013, 74-82

(16)山崎直樹, 21 世紀型スキルを視野に入れた外国語教育, 漢字文献情報処理研究, 査読あり, 第 14 号, 2013, 114-123

〔学会発表〕(計 36 件)

- (1)山崎直樹, 植村麻紀子, 鈴木慶夏, 中西千香, 西香織, 「外国語学習のめやす」に基づいた文型リストの構築—その枠組みと構築例, 外国語教育に関するセミナー&ワークショップ, 2016 年 1 月 9 日, 九州産業大学 (福岡)
- (2)山崎直樹, 植村麻紀子, 鈴木慶夏, 中西千香, 西香織, C 目標から C 文法へ—「コミュニケーション能力指標」から設計した機能的タスクと文型リストの提案, 日本中国語学会第 65 回全国大会, 2015 年 11 月 1 日, 東京大学駒場キャンパス (東京)
- (3)山崎直樹, 植村麻紀子, 鈴木慶夏, 中西千香, 西香織, 文型からコミュニケーションに至る方法とコミュニケーションから文型に至る方法, 日本中国語学会北海道支部例会, 2015 年 9 月 11 日, 釧路公立大学 (北海道)
- (4)山崎直樹, 『外国語学習のめやす』とは何か? これまでのアプローチとどこが違うのか?, 北海道大学国際本部留学生センター主催第 30 回日本語・日本語教育研修会, 2016 年 2 月 11 日, 北海道大学 (北海道)
- (5)山崎直樹, 「外国語学習のめやす」が中国語教育にもたらすもの, 日本中国語学会東海支部例会, 2015 年 11 月 14 日, 愛知大学車道キャンパス (愛知)
- (6)植村麻紀子, 主体的・協働的な学びを育むジグソー活動—「翻訳を通して中国理解を広げよう」プロジェクト, 第 11 回外国語授業実践フォーラム, 2016 年 1 月 10 日, 九州産業大学 (福岡)

- (7)鈴木慶夏, 「文法は体系である」の「体系」とは? 一名前を付けて保存する文法知識と上書き保存する文法知識一, 日本中国語学会第 65 回全国大会, 2015 年 11 月 1 日, 東京大学駒場キャンパス (東京)
- (8)鈴木慶夏, ライティング支援としての“i+1”, 中国語教育学会第 13 回全国大会, 2015 年 6 月 7 日, 龍谷大学深草校舎 (京都)
- (9)中西千香, 「めやす」に基づく文型リスト作成にあたっての問題点, 日本中国語学会東海支部例会, 2015 年 11 月 14 日, 愛知大学車道キャンパス (愛知)
- (10)山崎直樹, 植村麻紀子, 鈴木慶夏, 中西千香, 西香織, 学習者用文型リストに「やりとりモード (=会話モード)」が必要な理由, 日本中国語学会北海道支部例会, 2015 年 3 月 21 日, 北海道大学 (北海道)
- (11)山崎直樹, 植村麻紀子, 鈴木慶夏, 中西千香, 西香織, 「外国語学習のめやす」コミュニケーション能力指標のための中国語文型リストおよびそのフォーマットと作成手順の体系化, 言語教育エキスポ 2015, 2015 年 3 月 15 日, 早稲田大学 (東京)
- (12)山崎直樹, 汎 (外国語学習) 主義でいこう——ことばを学ぶ中で生きていくための全てを学ぶ, 外国語授業実践フォーラム第 8 回会合, 2015 年 1 月 24 日, キャンパスプラザ京都 (京都)
- (13)山崎直樹, 「形が残る成果物」から始めるインストラクションの設計, ロシア語教育研究会サマーセミナー・新潟県立大学国際地域学部外国語教育セミナー『隣語を通じて「つながる」言語教育—中国語、韓国語、ロシア語の取り組み—』, 2014 年 9 月 20 日, 新潟県立大学 (新潟)
- (14)植村麻紀子, レシピで学ぶ, おいしい中国語, 中国語教育・学習に関するワークショップ: レアリアのツボ、レアリアのチカラ～レアリアで学ぶ、教える中国語のために～第 2 弾 (中国語教育学会第 3 回研究会), 2014 年 10 月 25 日, 愛知大学名古屋キャンパス (愛知)
- (15)植村麻紀子, 中国語—学ぶことと教えること—「補語」を例にして, 文教大学大学院附属言語文化研究所 中国語教育夏期講座 (招待講演), 2014 年 8 月 1 日, 文教大学越谷キャンパス (埼玉県)
- (16)植村麻紀子, 藤井達也, 高等学校における中国語教育の現状と課題, 獨協大学創立 50 周年記念シンポジウム「複言語教育の現在と未来」, 2014 年 9 月 27 日, 獨協大学 (埼玉)
- (17)SUZUKI, Keika, Grammatical Affordance in Discourse: An Ecological Approach for Chinese Wh-conditionals, The 3rd International Conference on Chinese as a Second Language Research, August 28-30, 2014, University of Parma, Italy
- (18)鈴木慶夏, 文化情報の相対化—ローカル・リテラシーとグローバル・リテラシー—, 中国語教育学会全国大会, 2014 年 6 月, 大東文化大学 (東京)
- (19)中西千香, 植村麻紀子, 「できる」をどう評価するか—ループリックを使った実践例とワークショップ (如何評価学生的聽說読写能力), 早稲田大学孔子学院 中国語教師研修プログラム 2015, 2015 年 3 月 26 日, 早稲田大学早稲田キャンパス (東京)
- (20)中西千香, レアリアで学べる中国語～その特徴と導入例, 高等学校中国語教育研究会関東支部研修会, 2015 年 3 月 28 日, 慶応大学三田校舎 (東京)
- (21)中西千香, より自己発信型にするための初級中国語教育～この一年の試行と評価を中心に～, 中国語教授法研究会第二回研究会, 2015 年 2 月 28 日, 関西大学千里山校舎 (大阪)
- (22)中西千香, レアリアを学ぶとは?, 中国語教育学会研究会 中国語教育・学習に関するワークショップ レアリアのツボ、レアリアのチカラ ～レアリアで学ぶ、教える中国語のために～第 2 弾, 2014 年 10 月 25 日, 愛知大学名古屋校舎 (愛知)
- (23)中西千香, レアリアを利用した授業の具体案, 外国語教育ワークショップ「プチ IT を利用した外国語教育の実践」, 2014 年 7 月 26 日, 関西大学千里山キャンパス (大阪)
- (24)中西千香, 知っとく! リアルな中国語—レアリアで身近に学ぼう, 中京大学国際教養学部中国語講演会, 2014 年 7 月 15 日, 中京大学 (愛知)
- (25)中西千香, テキスト・検定・現実のはざままで—買い物シーンを例に, 中国語教育学会第 12 回全国大会, 2014 年 6 月 8 日, 大東文化大学 (東京)
- (26)山崎直樹, 21 世紀型スキルを視野に入れ

た外国語教育—ICTをどう使うか、あるいはどう使わないか、漢字文献情報処理研究会 2013 年度 サマー・カンファレンス『大学教養課程と ICT 教育』, 2013 年 7 月 27 日, 北海道大学 (北海道)

- (27)植村麻紀子, 翻訳教材としてのレアリア, 中国語教育学会第三回研究会「中国語教育・学習に関するシンポジウム レアリアのツボ、レアリアのチカラ」, 2013 年 10 月 12 日, 愛知大学 (愛知)
- (28)鈴木慶夏, 言語類型学視角下の漢語独特性対教学語法の啓示, 第二屆漢語独特性理論与教学國際研討会, 2013 年 10 月 20 日, 上海外國語大学 (中国)
- (29)鈴木慶夏, 「つながる」ための正統的周辺参加 —“把”構文で人助け—, 中国語教育学会九州地区研究会, 2013 年 10 月 14 日, 九州産業大学 (福岡)
- (30)中西千香, レアリア: Web やアプリからみる中国、中国語, 中国語教育学会第 11 回全国大会「ワークショップ: デジタルで授業を豊かに!」2013 年 6 月 1 日, 中央大学 (東京)
- (31)中西千香, 初修外国語中国語教育の私的取り組み, 漢字文献処理研究会 2013 年度サマー・カンファレンス「大学教養課程と ICT 教育」, 2013 年 7 月 26 日, 北海道大学 (北海道)
- (32)中西千香, レアリアの中国語学習における価値 —スーパーのチラシを通して—, 中国語教育学会第三回研究会「中国語教育・学習に関するシンポジウム レアリアのツボ、レアリアのチカラ」, 2013 年 10 月 12 日, 愛知大学 (愛知)
- (33)西香織, 邀請回応言語行為的漢日対比研究, 第五屆亜太地区國際漢語教学学会年会, 2013 年 8 月 24 日, Asia Institute, the University of Melbourne, Melbourne, Australia
- (34)西香織, 漢語学習者の漢語道歉回応策略, CLTA-GNY 2013 Annual Conference & the 11th New York International Conference on the Teaching of Chinese, 2013 年 5 月 5 日, Seton Hall University, USA
- (35)西香織, 出会いと別れのあいさつ言葉を振り返る—さよなら“老西”、“小橋本”, 高校中国語研究会関東支部教員研修会, 2014 年 3 月 22 日, 慶應義塾大学 (神奈川)
- (36)西香織, わびに対する応答の日中英対照

研究, 第 14 回東アジア国際日本語・日本文化フォーラム, 2014 年 2 月 7 日, 九州大学 (福岡)

〔図書〕 (計 2 件)

- (1)鈴木慶夏, 朝日出版, アクション!開始!—コミュニケーション中国語—, 2016, 総 142 頁
- (2)中西千香, 好文出版, 現代中国語における前置詞の機能分化と動詞との関わり, 2015, 総 244 頁

〔その他〕

ホームページ等

「中国語コミュニケーション文法を考える」
<http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~ymzknk/kome/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

山崎 直樹(YAMAZAKI, Naoki)
関西大学・外国語学部・教授
研究者番号: 30230402

(2)研究分担者

中西 千香(NAKANISHI, Chika)
愛知県立大学・外国語学部・准教授
研究者番号: 50548592

西 香織(NISHI, Kaori)
北九州市立大学・外国語学部・准教授
研究者番号: 70390367

植村 麻紀子(UEMURA, Makiko)
神田外語大学・外国語学部・准教授
研究者番号: 70512383

鈴木 慶夏(SUZUKI, Keika)
釧路公立大学・経済学部・教授
研究者番号: 80404797